

名鉄グループ 環境・社会報告書

2010



Environmental Social Report

MEITETSU Group

目次

■ 名鉄グループの概要	1
■ ごあいさつ	2

特集 4

■ 名鉄エコプロジェクト2010	4
------------------	---

環境活動報告 8

■ 名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制	8
名鉄グループ エコ・ビジョン	8
推進体制	9
アクション・エコ中期計画	9
環境マネジメントシステムの導入	9
■ 名古屋鉄道の取り組み	10
名鉄エコ・プラン	10
①環境負荷の軽減	11
②利便性の向上	15
③地域環境貢献	16
④環境法令の遵守	17
環境負荷データ	18
環境会計	19
■ 名鉄グループの取り組み	22
運輸	23
不動産・技術	25
流通	26
レジャー・サービス	27

社会活動報告 28

■ 安全への取り組み	28
安全に関する基本方針と安全重点施策	28
安全管理体制	28
安全性向上対策	29
■ お客さまとのかかわり	32
■ 地域社会とのかかわり	34
■ 株主・投資家の皆さまとのかかわり	36
■ 従業員とのかかわり	36

編集方針

本報告書は、昨年に引き続き、当社グループの環境および社会への取り組みについて紹介する冊子として作成しました。

本年も、より新しい情報を掲載するため、特集ページにおいて現在展開中の「名鉄エコプロジェクト2010」について紹介しています。

また、社会活動報告の中では、当社および当社グループを支えていただいているお客さまや地域社会、株主・投資家、従業員とのかかわりについて、ステークホルダーごとに内容を編集し、わかりやすく紹介しています。

本報告書の発行を通じて、さまざまな情報を開示し、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを促進していきたいと考えています。

対象組織範囲

名古屋鉄道㈱と名鉄グループ152社※を対象としています。
※関係会社158社から、実質的な経営権を有しない会社等を除いています。

対象期間

平成21年4月1日から平成22年3月31日までとしました。ただしそれ以外の期間に取り組んだ内容も一部記載しています。

記載方法

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」を参考にし、可能な限りガイドラインに記載された事項を網羅するよう努めました。

本報告書に関するお問合せ先

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会事務局
(名古屋鉄道株式会社経営企画部内)
〒450-8501 名古屋市中村区名駅一丁目2番4号
TEL 052-588-0805 FAX 052-588-0809
E-mail action-eco@nrr.meitetsu.co.jp

表紙紹介

表紙デザインは、平成22年5月から展開している「名鉄エコプロジェクト2010」の一環として運行中の、生物多様性の大切さをイメージしたラッピング電車「エコムーブトレイン」に使用されているイラストを使用しています。
(関連情報→4ページ)



用紙
乗車券リサイクル紙を使用しています。



フォント
視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント(書体)を使用しています。



インキ
大豆油インキの使用により石油系溶剤の使用量、VOC(揮発性有機化合物)発生を抑え、鉛、水銀、カドミウムなどの重金属も使用していません。



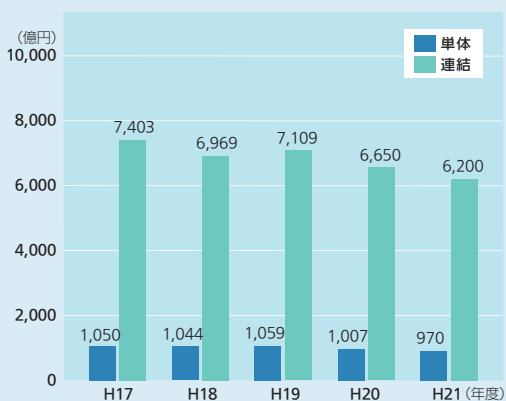
印刷
インキ転写時にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、「水なし印刷」を採用しています。



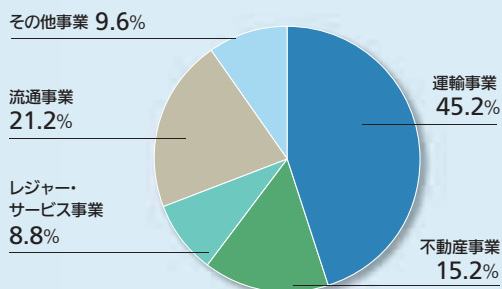
名鉄グループの概要 (平成22年3月31日現在)

- 関連会社数 連結子会社 141社
持分法適用会社 17社
- 営業収益 6,200億46百万円 (平成22年3月期)
- 従業員数 33,186人

営業収益の推移



営業収益比率 (平成22年3月期)



(注:営業収益と営業損益はセグメント間取引消去前)

名鉄グループ経営ビジョン

使命 地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する

経営理念 私たち名鉄グループは、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される「信頼のトップブランド」をめざします

経営の原点 お客さま満足度を高める
全社体制の確立

グループ経営の方向 競争に打ち勝つ経営力強化と
新しい事業への挑戦

経営方針

目指す社風 一人ひとりの資質向上と
チャレンジできる風土づくり

存続の条件 社会的責任の完遂

行動規範

- 真心のこもったサービスを提供し、信頼を勝ち取ります
- 新しい流れをつかみ、常にチャレンジします
- 一人ひとりが役割と責任を果たし、前進します

名古屋鉄道株式会社の概要

- 社名 名古屋鉄道株式会社
Nagoya Railroad Co.,Ltd.
- 創業 明治27年(1894年)6月25日
- 設立 大正10年(1921年)6月13日
- 代表者 取締役社長 山本 亜士
- 資本金 841億85百万円 (平成22年3月31日現在)

- 営業収益 970億94百万円 (平成22年3月期)
- 従業員数 5,155人
- 事業内容 鉄軌道事業、開発事業
- 駅数 275駅
- 営業キロ 444.2km
- 輸送人員 年間338,155千人 (平成21年度実績)

路線図





私たち名鉄グループは、豊 地域から愛される「信頼の

かな生活を実現する事業を通じて、 トップブランド」をめざします。



名古屋鉄道株式会社 取締役社長

山本 亜士

当社グループは、平成17年に「名鉄グループ経営ビジョン」を制定しました。この中では、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」ことを使命とし、「地域から愛される信頼のトップブランド」をめざすことを経営理念として、「安全、安心の徹底」や「地球環境保全活動の推進」などを経営方針の中に掲げています。

平成21年度からスタートした新中期経営計画では、交通ネットワークの充実をはじめ、沿線地域における都市開発や生活サービスといった、地域の皆さまの生活をより便利に、より豊かにする事業を一層強化することを目標といたしました。厳しい経営環境の中ではありますが、「危機感」を持ってグループの経営改革に取り組み、重点事業を強化し、「展望」を拓いてまいりたいと考えています。

さて、昨今の地球環境問題について目を向けますと、平成17年に気候変動枠組条約の「京都議定書」が発効し、日本は平成20年から平成24年の間に、CO₂などの温室効果ガス排出量を平成2年に比べて6%削減することが義務づけられたことにより、さまざまな対策を進めてきました。

また、昨年9月には、ニューヨークの国連気候変動サミットにおいて、日本は、独自の目標として、温室効果ガス排出量を平成32年までに平成2年に比べて25%削減することを表明しました。この目標を達成するために、企業はさらに一層の温室効果ガス削減に向けて、積極的に対処していくことが求められています。

当社グループでは、平成18年に環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を策定し、「環境問題を地球規模で考え、地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業をめざします」という基本理念を掲げて、グループをあげて環境保全への取り組みを推進しています。

また、昨年度から3ヵ年を期間とする「アクション・エコ中期計画」を策定し、グループ全体のエネルギー使用量の低減やグループ一体となった環境活動の推進などの目標を掲げて、環境負荷低減に努めております。

当社においては、エネルギー効率の高い鉄道やバスなどの公共交通を利用することそのものが「身近で簡単な環境活動」であることを広く皆さまに理解していただくため、平成18年より「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しています。

同キャンペーンの一環として、一昨年度からは地球環境を考えるさまざまな施策やイベントを展開する「名鉄エコプロジェクト」を実施し、鉄道の環境優位性を理解していただき、環境にやさしい移動・行動を訴えることを通して、地域とともに環境負荷の低減に取り組んでいます。

また、使用済み乗車券のリサイクルや沿線でのパーク&ライド駐車場の整備、駅のバリアフリー化の推進、平成23年2月に予定のICカードシステム導入、またカーシェアリングやコミュニティサイクルなどの新しい端末交通手段の整備や検討を進め、利便性の向上に努めてまいります。

今年10月には名古屋市において「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」が開催され、当地域における環境に関する意識はますます高まるものと思われまます。当社グループは社会・環境に貢献できる企業集団として、企業としてはもちろん個人レベルでも地球環境や社会に貢献し、当地域のさらなる発展に寄与できるように、真摯に取り組んでまいります。

名古屋鉄道では、平成18年6月から環境にやさしい鉄道の利用促進をPRするキャンペーン「電車で、ECO MOVE。」を展開していますが、その一環として、今年で3回目となる「名鉄エコプロジェクト2010」を5月22日(土)～10月31日(日)まで実施しています。

このプロジェクトは鉄道の環境優位性および名鉄グループの環境への取り組みをPRするとともに、今年10月に名古屋で開催される「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」を盛り上げることを目的に展開しています。

1 “エコムーブトレイン”の運行

平成20年の運行から今回で3代目となるエコムーブトレイン。今回は今年10月に「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」が開催されることもあり、沿線の小学生が描いた「海の生きもの」と「森の生きもの」のほか、環境をイメージしたイラストで電車をラッピングしました。また、電車内のポスターでは、小学生の制作風景や名鉄グループの環境への取り組みを紹介しています。(COP10パートナーシップ事業※登録)

※生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)支援実行委員会が、平成22年10月のCOP10開催に向け、同委員会のパートナーとして会期前および会期中における事業やイベントを「COP10パートナーシップ事業」として募集しているもの。対象となるのは、市民団体、企業、学校、研究機関、自治体等が主催し、COP10開催と生物多様性の保全に向けた「地域からの行動(ローカルアクション)」に関連する事業やイベント。



エコムーブトレイン



車内の様子



車内ポスター例

「みんなで描こう!エコムーブトレイン」



まずはみんなでお絵かき



電車の実物大シートに並べて



レイアウト完成!

今回のエコムーブトレインでは、沿線の小学生に「海の生きもの」「森の生きもの」を自由に描いていただき、ラッピングデザインの一部にしています。

■ご協力いただいた学校

犬山市立犬山南小学校3年生、美浜町立奥田小学校5・6年生

■招待イベント

お絵かきに参加していただいた小学生とその保護者に、完成したエコムーブトレインに乗車するイベントを6月19日に開催しました。(詳細は37ページ)



2 「親子で学ぶエコ教室」の実施

エコについて親子で楽しく学ぶ「親子で学ぶエコ教室」を平成22年8月8日に東邦ガス株式会社と共同で実施し、親子ペア120名が参加しました。

第一部では、「エコムーブトレイン」を臨時列車として走らせ、その車内で当社の環境への取り組みについてクイズをしながら楽しく学びました。途中で新川検車区において、電車に乗車したままの洗車機を通る体験や車内放送体験を実施しました。

第二部では、東邦ガス・ガスエネルギー館において、エネルギーや環境、生物多様性に関するパネル紹介や映像の上映、食材を無駄なく利用するなど環境に配慮したエコスイーツづくり体験を行いました。(COP10パートナーシップ事業登録)



エコムーブトレイン車内の様子



エコスイーツづくりの様子

3 「名鉄沿線いきものつながり」の実施

今年10月に名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されることもあり、名鉄沿線の「街・山・川・海」に住む身近な生物を通して、生物・環境・人間のつながりを知り、生物多様性について理解を深めていただくために、名鉄沿線で見つけた昆虫や鳥、草花など“いきもの”の写真をインターネットで募集し、専用ホームページにそれら“いきもの”の情報が掲載された「いきものマップ」を作成する一般参加型プログラムを実施しました。(COP10パートナーシップ事業登録)



Webサイトトップページ



告知ポスター



4 エコハイキングの開催

「生物多様性の日」である5月22日に、ハイキングをしながら生物多様性について考える「名鉄の日帰りバスツアーハイキング『須磨海岸から須磨海浜水族園』コース」を開催しました。ハイキングコース中の須磨海浜水族園では、海洋生物の生態に合わせた展示や園長による生物多様性に関するレクチャーなどを通して、生物多様性の大切さを感じていただくほか、須磨ノ浦では、ハイキングスタッフや参加者による海岸清掃活動を実施し、生物が生きる環境の保全に努めました。また、名鉄バスセンターとハイキング場所（兵庫県神戸市）間の往復の移動には、環境配慮型のバスを利用しました。（COP10パートナーシップ事業登録）



清掃風景



園長によるレクチャー

5 「エコ・SFパノラマカード」の発売

環境にやさしい公共交通をより多くご利用いただくため、「エコ」をイメージしたオリジナルデザインのSFパノラマカードを、「環境の日」である6月5日から3万枚発売しました。特典として、同カードを利用し名鉄百貨店へお越しいただき、1万円以上お買い上げのお客さまにオリジナルエコバッグをプレゼントしました。また、使い終わったSFパノラマカードの回収も行い、リサイクル事業に活用しています。



オリジナルエコバッグ



エコバッグとエコ・SFパノラマカードを持つナナちゃん



エコ・SFパノラマカード

6 「ナナちゃん」のエコ装飾

名鉄百貨店の「ナナちゃん」も「環境の日」である6月5日から6月17日までエコな装いに衣替えをしました。名古屋駅のシンボル「ナナちゃん」がエコバッグを肩にかけ、「エコ・SFパノラマカード」を手に持ち、環境にやさしい行動の大切さを呼びかけました。

7 「日本モンキーセンタースーパーサマースクール」の開催

夏休みに小学校高学年を対象として、1泊2日の体験型の本格的環境学習プログラム「日本モンキーセンタースーパーサマースクール」を3回にわたり開講しました。東京・大阪・名古屋から参加した約80名の子どもたちは、学芸員によるサル学のレクチャー、飼育体験、石器づくりと石器を使った調理体験、夜の動物園体験などを行い、サルの生態を通じて生物多様性の保全について学びました。(COP10パートナーシップ事業登録)



サルの行動観察

8 エコキャップアニマル

ペットボトルのキャップを集めて売却し、その利益を環境保全団体WWFジャパンに寄付する「エコキャップアニマル」。名鉄グループ3社で6ヵ所の回収ボックスを設置して、絶滅の危機に瀕した動物の保護に役立ってます。名鉄グループのキャップ回収ボックスには、ゴリラのシルエットが使われています。

■設置箇所

東岡崎駅、中部国際空港駅、金山駅、名鉄岐阜駅、藤が丘effe、名神高速道路養老サービスエリア(下り)
(主催:中日新聞社、協力:WWFジャパン、
協賛:名古屋鉄道、名鉄協商、名鉄レストラン)



エコキャップアニマル

9 名鉄グループ提供ラジオ番組「ECO STATION PLUS」の放送

6月1日から10月31日の期間中、毎週月曜から金曜8:46～8:51にZIP-FMにおいて、名鉄グループ提供のラジオ番組「ECO STATION PLUS」を放送しています。番組内では、名鉄グループの環境への取り組みや、海外・国内のエコに関する情報、リスナーから寄せられる身の回りのエコ活動を紹介しています。

環境活動報告

よりよい環境を
次代へ引き継いでいくため
グループ一体となって
地球環境保全に貢献していきます。



名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制

グループ環境方針のもと、推進体制を確立し、環境活動の深度化を図っています。

【名鉄グループ エコ・ビジョン】

名鉄グループでは、環境にやさしい企業活動をグループ経営戦略のひとつとして活かし、社会的責任の完遂を進めていくため、平成18年4月に環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を策定しました。

名鉄グループ エコ・ビジョン

基本理念

名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業をめざします

基本方針

1 環境問題に対する一人ひとりの意識向上につとめます

地球環境問題を正しく理解し、持続可能な社会の実現のために一人ひとりが行動できるよう、環境教育や啓発を通じて、意識向上を図ります。

2 環境保全に関する技術力の向上と提供につとめます

グループが展開する幅広い事業を活かし、各社は保有・開発する環境保全事業やノウハウの共有と社会への提供を通じて、環境負荷の軽減を図ります。

3 地域との連携を大切にし、環境保全に対する社会貢献につとめます

地域を中心とした関係各方面と協力し、地球環境保全の向上を図ります。また環境に関する情報公開を通じて、あらゆるステークホルダーとの対話を深めます。

4 環境法令の正しい理解と遵守につとめます

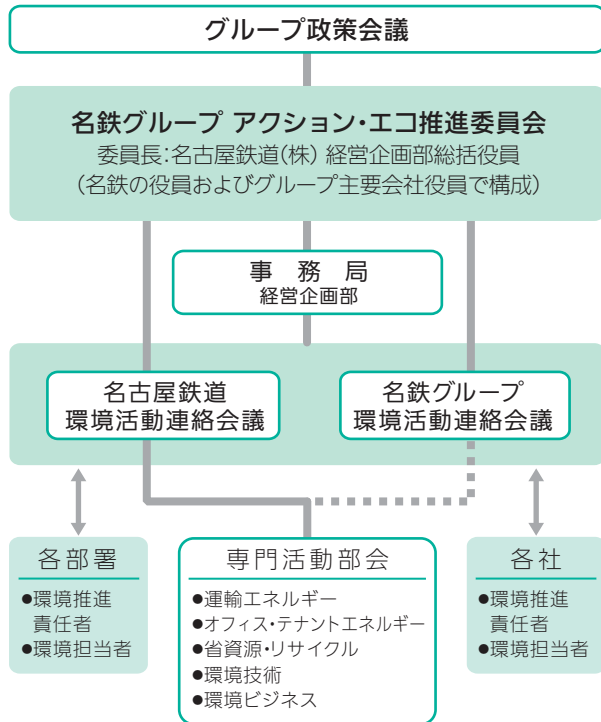
名鉄グループ企業倫理基本方針に則り、環境法令の理解・遵守はもちろんのこと、各社相互間の情報交換等を通じて、環境リスクの予防と低減を図ります。

行動目標

上記の基本理念・基本方針を受け、名鉄グループ各社毎に、環境活動における行動目標を設定します。

【推進体制】

名鉄グループ一体となった活動を推進するため、平成18年4月に「名鉄グループ アクション・エコ推進委員会」を設置しました。この委員会では、グループ政策会議で決定される基本方針を受け具体的な施策の立案と推進を行います。施策の実施を円滑に行うため、連絡会議の開催や、各部署・各社に配置した「環境推進責任者」「環境担当者」を通じて、活動の浸透を図っています。



【アクション・エコ中期計画】

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会では、グループが一体となった環境活動を推進するため、平成21年度から3カ年を計画期間とする「アクション・エコ中期計画」を策定しました。本計画では、環境ビジネスマッチングの実施やグループ共同での環境PRの展開など、グループの連携を強化するとともに、グループ全体の環境負荷を低減するため、各社で行動目標を立て取り組むことを掲げています。

■アクション・エコ中期計画の概要

- 1 グループ一体となった環境活動の推進
- 2 エネルギー使用量を毎年前年度比1%削減
- 3 各社環境行動目標の設定

【環境マネジメントシステムの導入】

名鉄グループ各社では、より環境に配慮した事業展開を行うため、各種の環境マネジメントシステムを導入しています。これにより、環境負荷の軽減や環境リスクの予防はもとより、経営効率の向上などの効果も生まれています。

■ISO14001認証取得会社

会社名	取得年月	審査登録機関
名古屋鉄道(舞木検査場)	平成12年6月	JQA
矢作建設工業	平成12年8月	(財)建材試験センター
メイエレクト	平成13年6月	JQA
電通名鉄コミュニケーションズ	平成13年9月	JQA
山梨名鉄運送	平成14年4月	JACO
名鉄ビルディング管理	平成14年6月	JQA
名鉄百貨店	平成14年8月	JQA
名鉄運輸	平成14年9月	JQA
名鉄協商	平成15年2月	ビューローベリタスジャパン(株)
名鉄クリーニング	平成15年3月	KHK
奥飛観光開発	平成17年3月	(財)日本ガス機器検査協会
中日本航空	平成18年11月	JQA
名鉄グランドホテル	平成18年12月	JQA

JQA: (財)日本品質保証機構 JACO: (株)日本環境認証機構 KHK: 高圧ガス保安協会

■グリーン経営認証取得会社

バス	名鉄観光バス / 宮城交通
タクシー	名鉄交通 / 愛電交通 / 名鉄西部交通 名鉄知多タクシー / 名鉄東部交通 名鉄名古屋タクシー / 浜松名鉄交通 / 豊鉄タクシー
トラック	信州名鉄運輸 / 四国名鉄運輸 / 名鉄ゴールデン航空 西肥名鉄運輸 / 東北名鉄運輸 / 柳島運送 / 名鉄急配 新潟名鉄 / トーハイ / 三陸貨物 / 中国名鉄運送

■名古屋市エコ事業所認定会社

名古屋鉄道 / 名鉄病院 / 名鉄百貨店 / 名鉄協商 / 名鉄産業 矢作建設工業 / メイエレクト / 名鉄環境造園
--

■自動車エコ事業所認定会社 ■エコアクション21認証取得会社

名鉄バス / 名鉄協商	名鉄交通商事
-------------	--------

(平成22年6月現在)

TOPICS

自動車エコ事業所の認定取得

名鉄協商では、平成21年12月に本社および駐車場センターが愛知県から「自動車エコ事業所」として認定されました。これは、8割を超えるエコカー導入率と充電設備の対外的開放が、自動車環境対策への取り組みとして評価されたものです。



名古屋鉄道の取り組み

名古屋鉄道は、名古屋を中心として愛知・岐阜両県下に444.2kmの鉄道路線網を持ち、お客さまの足として公共交通サービスを提供しています。地球環境問題への意識が高まる中、エネルギー効率のよい鉄道は、マイカーに比べCO₂排出量が約9分の1であり、「環境にやさしい乗り物」として、その果たす役割が見直されてきています。当社は、省エネルギー車両への更新やパーク&ライド駐車場の整備、使用済み乗車券のリサイクルなどに継続的に取り組み、地球温暖化防止に努めています。

これからも、さらなる輸送サービスの向上をめざし、さまざまな交通事業者との連携や地域特性を生かした交通ネットワークの充実を図るとともに、安全で快適な移動環境を提供することで、お客さまの利便性と満足度を高め、地域社会に貢献していききたいと考えています。



【名鉄エコ・プラン】

平成19年4月に環境活動の基本的な考え方を示す環境方針「名鉄エコ・プラン」を制定しました。各部署は、この方針をもとに、それぞれの業務の中で発生する環境負荷の把握を行い、それを軽減させるために取り組める内容を「エコ・マニフェスト」として設定しています。

名鉄エコ・プラン

行動指針

1 環境負荷の軽減

省エネルギー、リサイクルなどの目標を掲げ、温室効果ガスを削減します。

- 運転電力削減目標を達成します。
- 使用済み乗車券のリサイクル率100%を達成します。

2 利便性の向上

効率的で利便性の高い公共交通サービスを提供し、環境にやさしい鉄道の利用を促進します。

3 地域環境貢献

地域の皆さまとともに環境保全活動を推進し、環境にやさしい地域社会づくりに貢献します。

4 環境法令の遵守

環境問題に対する意識を高め、環境法令の遵守を徹底します。

行動目標

各部署が環境行動目標を設定し、「エコ・マニフェスト」として部署長が宣言し、実行する。

エコ・プラン行動指針1 環境負荷の軽減

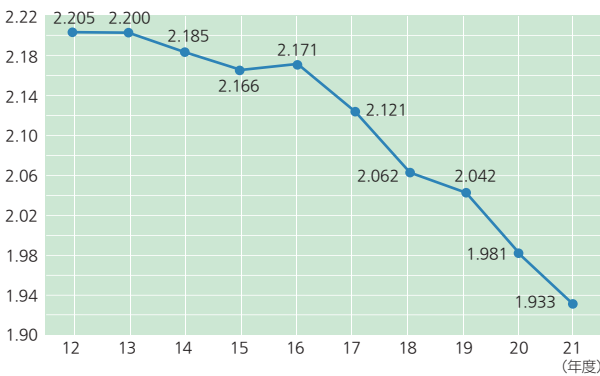
電車の運転電力原単位の向上

電車の運行では、非常に多くの電力を消費します。なるべく少ない電力で運行ができるよう、乗務員の節電運転研究や、線区ごとの省エネ活動組織（運輸エネルギー部会）での取り組みのほか、車両自体の省エネルギー化の推進や電気設備の改良を行い、原単位※の向上に努めています。

平成21年度は、車両走行キロの減少や新型車両の導入、効率的なダイヤ・車両編成に努めたほか、乗務員が節電を意識した運転操作に心がけた結果、原単位は前年度比約2.4%向上し、平成22年度までの目標をすでに達成しました。今後は以下のように新たな目標を設定し、原単位の向上に努めていきます。 ※電車1両が1km走行するのに要する電力量

平成26年度の電車の運転電力原単位を、
全線で平成21年度比▲5%をめざします。

■1車両1キロあたりの電力使用量の推移 (kWh/Car-km)



車両の省エネルギー化

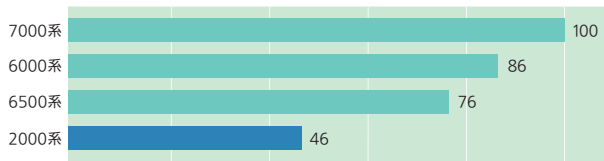
省エネの観点から、旧型車両の計画的な更新を進めています。ブレーキ時にモーターを発電機として作用させ、生み出された電力を架線に戻し、他の電車が加速する際その電力を使えるようにできる「電力回生ブレーキシステム」や、架線から受ける直流電流を交流に変換し、効率よく電力の使用ができる「VVVFインバータ制御」機能を搭載した省エネルギー車両への更新により、消費電力の削減を図っています。

平成21年度はVVVFインバータ制御を搭載した車両を16両新造しました。今後も快適性の向上とともに、省エネルギー車両の導入を推進していきます。

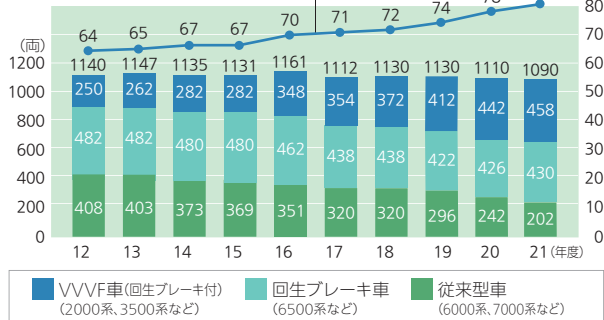
平成21年度末現在

車両数 ----- 1,090両
省エネルギー車両数 ----- 888両
省エネルギー車両導入率 ----- 81%

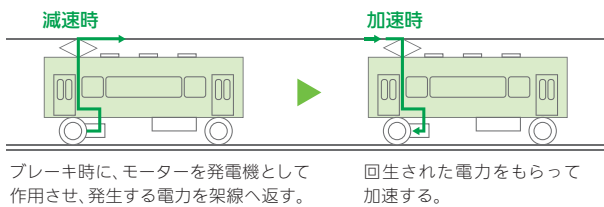
■名鉄の車両別消費電力の比較 (指数[7000系=100])



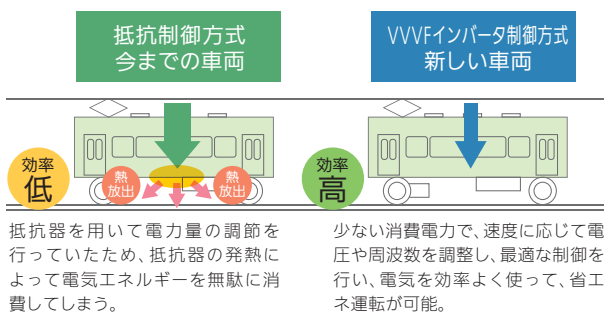
■省エネルギー車両の推移



■電力回生ブレーキシステムの仕組み



■VVVFインバータ制御の仕組み



TOPICS

車輪フラット検出装置

メイエレックでは、車輪踏面に発生したフラット・剥離・熱亀裂を早期発見する装置を、名古屋鉄道と共同開発で平成11年に導入し、騒音・振動低減と業務効率化に大きく寄与しており、他の鉄道会社にも導入されています。(特許登録済)

お問合せ 株式会社メイエレック
技術開発部 鉄道技術課 052-678-1895



センサー設置状況

電気施設の省エネルギー化

鉄道事業において非常に多く使用する電力を、最大限効率よく使用し、地球温暖化防止に貢献するため、電気施設の省エネルギー化を推進しています。

■ 力率改善コンデンサーの設置

大容量の電力を直接、電力会社から購入し、沿線35ヵ所に設けた自社変電所で受電し、主に電車の運転エネルギーとして使用しています。受電した電力を効率よく使用するため、変電所に力率改善コンデンサーを設置し、エネルギー効率の向上を図っています。平成5年から順次進めており、現在11の変電所で使用しています。

■ き電線の強化

架線に流れている電車運転電力の送電ロスを低減させるため、き電線を太くするなどの強化を進めています。当社ではほとんどの線区で上下一括き電方式を採用しています。この方式は、上り下りの架線を接続して電力を供給する方式で、走行中の電車まで効率良く電気を流すことができます。また、回生電力を上り下りの電車に限定されることなく、有効に使えるメリットもあります。



電気保守作業

■ 騒音の低減化

変電所の新設や大規模改良工事の機会に合わせて、防音壁等の設置や屋内型機器の採用により、変圧器のうなり音や開閉装置等の動作音による騒音の低減を図り、周囲の環境に配慮しています。



屋内型機器を採用した各務原変電所

■ 信号機および踏切灯器のLED化

信号機および踏切灯器で使用する電球のLED化を順次進めています。LEDは電球に比べ消費電力が少なく、長寿命であるだけでなく、視認性にも優れているため、今後も新設または更新の際にはLED化を積極的に進めていきます。



LED化した信号機

■ 回生電力吸収装置の試験設置

電車の運転電力をさらに有効活用する方策を検討する一環として、平成20年4月、「回生電力吸収装置」を試験的に設置しました。この装置は、車両の「電力回生ブレーキシステム」によって、架線に戻された電気エネルギー（回生電力）を一時的に蓄電池に蓄えておき、必要に応じて架線へ戻すことができます。

回生電力は、それを使う電車がいない場合無駄になってしまいますが、この装置によってそれを防ぐことができ、電力の有効活用に役立てることができます。



回生電力吸収装置

TOPICS

軌条踏面塗油装置

メイレックでは、列車が急曲線部を通過する時に発生する、周波数の高い不快な「きりり音」の低減装置を名古屋鉄道と共同開発し、昭和62年より随時導入し、騒音低減に大きく寄与しています。

お問合せ 株式会社メイレック
技術開発部 機器課 052-678-1843



装置設置状況

沿線環境保全

■ロングレール化

レールには継目があり、継目の上を列車が通過することにより、騒音と振動が発生します。これを軽減するため、継目を溶接し、1000m前後の長さにするロングレール化を各所で進めており、全線で258.1kmに導入しています。

平成21年度ロングレール施工実績
3.8km(累計施工実績全線で258.1km)



土木保守作業

■レールの重量化

レールを重いものにする事で列車の走行性が安定し、乗り心地が向上するほか、騒音・振動の減少にも効果があります。本線軌道長のうち99%が重レール(50kg/m以上のレール)になっています。

■レール削正車の導入

線路の保守管理の新しい手法として、車体の下に装着された16個の砥石を高速回転させ、レールの細かな傷や凹凸を削り取るレール削正車を導入しました。これにより、レール寿命の延伸、騒音・振動の軽減や乗り心地の向上を図っています。



16頭式レール削正車

リサイクルの取り組み

名古屋鉄道では早くから、使用済み乗車券のリサイクルに積極的に取り組んできました。平成8年度にリサイクルシステムを稼動してから段階的にリサイクル処理量を増やし、平成18年度には初めてすべての使用済み乗車券(定期券およびカード類含む)をリサイクルすることに成功しました。

紙製乗車券の大部分は、マテリアルリサイクルを行っています。封筒や紙ファイル、名刺などの事務用品をはじめ、駅のベンチや分別ボックス、トイレトーパーへの再生も積極的に行うとともに、リサイクルシステムを他の鉄道事業者などへも広げています。(平成21年度末時点20社局)

平成21年度は、使用済み乗車券が32t発生、すべてをリサイクル処理し、使用済み乗車券を原料に製作したリサイクルベンチを、岩倉駅・土橋駅などに、23台設置しました。

平成21年度乗車券リサイクル率 100%



乗車券リサイクルベンチ(岩倉駅)



乗車券リサイクルトイレトーパー

オフィスでのエコ活動

オフィスでの環境活動は、廃棄物の分別から省エネルギー、グリーン購入に至るまで、さまざまです。身近で幅広いオフィスでの取り組みは、企業の環境活動の基本として位置付け、継続的に取り組んでいます。

■多分別ボックスの設置

オフィスで発生する多種多様の廃棄物を、資源として可能な限り有効に活用するため、多分別ボックスの設置を行っています。本社事務所では、11種類に分別し、廃棄物のリサイクル率向上を図っています。



多分別ボックス

■グリーン購入方針の策定

環境に配慮した資材や物品の購入を行うグリーン購入を進めています。当社では、平成15年に購入の際の指針となる「グリーン購入方針」を策定しています。

平成21年度グリーン購入率 **76%** (金額ベース)

名古屋鉄道グリーン購入方針

製品を購入する際には、次の項目に留意して、できる限り環境負荷の少ない製品の購入に努める。

1. 環境汚染物質の有無の確認
2. 省エネルギー製品の優先的購入
3. 長寿命製品の優先的購入メンテナンスの容易性など、できる限り長期間使用できる工夫のされている製品を優先的に購入する。
4. リユース・リサイクルの推進
5. リサイクル製品の優先的購入
6. 廃棄の際に環境負荷の少ない製品の優先的購入
7. 環境に関する情報を入手しやすい製品の優先的購入

■クールビズ・ウォームビズの実践

平成17年から、環境省が地球温暖化防止行動として提唱している「クールビズ」「ウォームビズ」を毎年実践しています。夏季は6月から9月までの4ヵ月間、本社を中心とした部署で、空調温度を高め設定し、軽装による勤務を実施しています。冬季は12月から翌年3月までの4ヵ月間、「ウォームビズ」に取り組んでいます。

その他の取り組み

■自然エネルギーの利用

駅や駅ビルの設備において、太陽光や雨水など、自然エネルギーを利用しています。

尾張瀬戸駅では、平成13年から太陽光発電パネルおよび雨水タンクを設置し、駅の照明の一部、トイレの洗浄水を賄っています。また名鉄新一宮ビル(名鉄百貨店一宮店)および名鉄長住町ビル(岐阜ロフト)でも、雨水を雑用水の一部に活用しています。

平成21年度実績

太陽光発電 **974kWh**

雨水使用量 **11,859m³**



太陽光発電パネル(尾張瀬戸駅)



雨水タンク(尾張瀬戸駅)

■コジェネレーションシステムの導入

名鉄新一宮ビルにはガスコジェネレーションシステムを導入しています。このシステムは、都市ガスで自家発電を行うとともに、発電時に出る排熱も有効利用できます。エネルギー効率は、電力会社から送られてくる電力が35%程度であるのに対し、このシステムでは70~90%となっています。

また、名鉄名古屋駅および本社、名鉄バスセンターのあるビルでは、ガスコジェネレーションシステムを活用した地域冷暖房を導入しています。



名駅南地域冷暖房プラントビル

TOPICS

電気高効率水冷チラーへの更新

平成22年1月に国土交通省「既設住宅・建築物省エネ改修緊急促進事業」の補助金を得て、神宮前駅西口ビルのガス焚き・油焚きの冷温水発生機を電気高効率水冷チラーへ更新しました。また冷温水ポンプのインバータ化や、誘導灯の一部を高効率照明へ切り換えることで、大幅なエネルギー削減効果を見込んでいます。今後も順次省エネ機器を導入し、地球温暖化防止に貢献していきます。



電気高効率水冷チラー

バリアフリー化5ヵ年計画の策定と推進

皆さまに安心してご利用いただける「人にやさしい鉄道づくり」を進めています。施設面においては、「バリアフリー新法」に基づく駅施設の整備をさらに推進するために、平成22年度までのバリアフリー化5ヵ年計画を策定しました。同法対象駅75駅(平成21年度乗降人員実績による)のうち、平成21年度までに64駅において段差解消についての整備を完了しています(「5ヵ年計画」累計達成率85%)。車両においても、車いす用座席の設置や車いす対応トイレを整備した車両の導入を進めています。

ソフト面でのバリアフリー化も推進するため、「サービス介助士[※]」(平成21年度末で93駅516名)の配置や「耳マーク」の掲出、「こども110番の駅」の取り組みなども併せて行っています。

※NPO法人「日本ケアフィットサービス協会」が認定する民間資格。

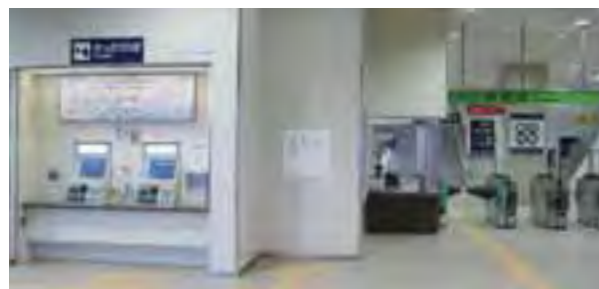


バリアフリー化した駅(土橋駅)

平成21年度バリアフリー化工事実施駅
12駅

共通SFカードシステム

SF(ストアードフェア)カードシステム「トランパス」によって、1枚のSFカードで中部圏の他の交通事業者間を利用できるため、乗車券紙の削減につながるほか、一定のプレミアムも付与されているなど、利便性向上に大きく寄与しています。当社では平成20年6月の整備をもって導入を完了し、全275駅中261駅でご利用いただけます。



システムを導入した桜井駅

ICカードシステム

名古屋鉄道、名鉄バス、豊橋鉄道では、名古屋市交通局(地下鉄・市バス)、名古屋臨海高速鉄道(あおなみ線)、名古屋ガイドウェイバス(ゆとりーとライン)でも利用できるICカード乗車券「manaca(マナカ)」を平成23年2月に導入します。

manacaに事前にチャージ(入金)しておけば、自動改札機やバス運賃箱にタッチするだけで運賃を自動的に差し引くことができ、定期入れなどから取り出す必要もないほか、マイレージポイントの導入や電子マネー機能の付加などにより、お客さまの利便性の向上を図ります。また、manacaとJR東海のTOICAとの乗車券機能の相互利用を平成24年春に、JR東日本のSuicaとの乗車券機能の相互利用およびTOICA、Suicaとの電子マネー機能の相互利用を平成25年春に実施します。



ICカード乗車券「manaca」

パーク&ライド駐車場・駐輪場の整備

マイカーの利便性と鉄道の環境効率のよさを組み合わせた「パーク&ライド駐車場」の整備を積極的に進め、その活用をお客さまに呼びかけています。移動手段をマイカーから鉄道に切り替えていただければいただけるほど、地域の環境負荷軽減につながります。より多くのお客さまに最寄りの駅の駐車場にマイカーを止め、駅からは鉄道をご利用いただけるよう、沿線に約2万3千台の駐車場を整備するとともに、「パーク&ライド」利用者向けにおトクなプリペイドカードの販売も行っています。

平成21年度新規整備台数
駐車場 28台(鳴海駅)
駐輪場 50台(知多半田駅)



パーク&ライド駐車場(鳴海駅)

沿線での清掃奉仕活動

名古屋鉄道は駅をはじめ沿線を中心に、多くの事業所が点在しています。事業所が所在するそれぞれの地域の皆さまと、よりよい関係を保ち、共存させていただくため、環境面での社会貢献活動も積極的に行っています。

例えば、本社周辺では「名駅をきれいにする名鉄グループの会」を立ち上げ、名鉄グループの各社とともに毎月第2・第4月曜に名古屋駅前の清掃活動を行っています。

また、土木部建設1、2課では、工事現場周辺の清掃活動を月一回以上行うなど、地域の環境美化に貢献しています。



「名駅をきれいにする名鉄グループの会」の清掃活動



土木部建設1、2課の清掃活動

環境コミュニケーションの推進

ポスターや広報誌、環境イベントなどを通じて当社の環境活動を広くご理解いただけるよう努めています。最近では、環境にやさしい電車の利用をPRする「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンの一環として、「エコ通勤へ、つながります。」をキャッチフレーズに、電車を使って通勤する「エコ通勤」を促進しています。

また、「名鉄でんしゃまつり」では会場内で当社の環境活動を紹介したほか、スタンプラリー形式で楽しく環境について学ぶ企画を実施しました。今後も地域の皆さまと環境について考える活動を進めてまいります。



「エコ通勤へ、つながります。」新聞広告



名鉄でんしゃまつり エコスタンプラリー

TOPICS

「エコ乗りフリーきっぷ」を発売

「環境にやさしい」鉄道利用を促進する「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンの一環として、春の行楽のお出かけに電車をご利用いただきやすくなるため、平成22年4月15日から5月9日まで期間限定で「エコ乗りフリーきっぷ」を発売しました。このきっぷは、名鉄電車全線一日乗り放題のきっぷを通常価格よりおトクに発売したもので、名鉄沿線の対象施設・店舗(約40ヵ所)でご利用・お買い上げの方を対象に「割引」や「プレゼント」の特典がついています。大人用のきっぷには名鉄協商駐車利用券(100円分)の引換券がセットになっており、「パーク&ライド」に便利とご好評をいただきました。



環境教育

従業員一人ひとりが環境問題や環境法令に対して正しい認識を持つことが、活動の基礎として最も重要であると考え、全従業員に対して、定期的に環境教育を実施しています。(新規採用時、入社10・20年経過時、昇級時等)

■平成21年度 環境教育(研修)受講者数

新入社員研修	171名
総合職中途採用者研修	4名
入社10・20年次研修	293名
合計	468名

改正省エネ法への対応について

名古屋鉄道は、平成18年4月に改正された省エネ法に基づき、特定輸送事業者として、鉄道事業に係る省エネルギー計画書および毎年のエネルギー使用量の報告を行っています。

また、平成21年4月に改正された省エネ法に基づき、平成21年度分の当社全体のエネルギー使用量を届出しています。

PCB廃棄物への対応について

カネミ油症事件に端を発し、製造が禁止された絶縁油「PCB」は、変圧器や整流器、蛍光灯の安定器等で多く使用されており、機器の使用中止後も専用の処理施設以外での廃棄処分は認められていません。

当社でも柱上トランスや、車両、ビルの電気室などでPCB使用の電気機器があり、使用後は厳重に保管をしています。平成20年1月に当社の廃棄物の処理が始まり、法で決められた処理期限(平成28年7月)までに完了する予定です。



PCB廃棄物の搬出作業

「パーク&ライド」で環境にやさしく!

「パーク&ライド」とは、会社や学校などの目的地に直接、クルマで行くのではなく、最寄りの駅やバス停近くの駐車場にクルマを停めて、鉄道やバスに乗り換え、目的地に向かう移動方法のことです。

■パーク&ライドのメリット

渋滞する場所に行く前に乗り換えるので

- ・環境負荷を低減できる
- ・運転でイライラせずに済む
- ・鉄道や地下鉄で予定時間までに確実に早く着ける
- ・目的地で空き駐車場を探し回らなくて済む
- ・都心や観光地の中心部の割高な駐車料金を払わなくて済む



国府宮駅前パーキング



名古屋鉄道では、パーク&ライドのための駐車場を沿線に約2万3千台分用意しています。

【環境負荷データ】

事業活動において、電力をはじめとしたエネルギーや資源を消費し、温室効果ガスや廃棄物を排出しています。これらの環境負荷をINPUT・OUTPUTとして把握し、環境負荷を低減する活動につなげています。

INPUT



電気

448百万kWh



都市ガス

219千m³



プロパンガス

27千m³



A重油

305千ℓ



ガソリン

129千ℓ



灯油

142千ℓ



軽油

76千ℓ



熱

19,372GJ*



紙(A4換算)

5,276千枚



水

414千m³

*GJ(ギガジュール)とは、仕事量、熱量および電力量の単位であるJ(ジュール)の10⁹倍に相当します。

OUTPUT



CO₂

207千t-CO₂



一般廃棄物

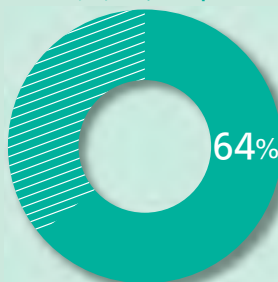
2,949t

うち

リサイクル

1,901t

リサイクル率



産業廃棄物

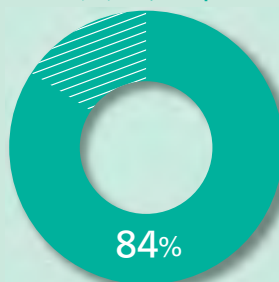
1,088t

うち

リサイクル

910t

リサイクル率



乗車券類

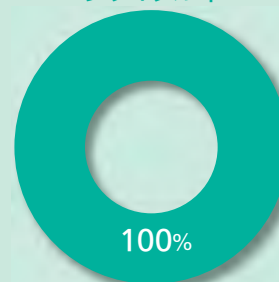
32t

うち

リサイクル

32t

リサイクル率



・名古屋鉄道(株)のみの数値。 ・数値は、切り上げて表示。 ・産業廃棄物の数値には、乗車券類の数値を含まない。
 ・二酸化炭素排出原単位の算定は地球温暖化対策推進法に基づく「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に準拠。

【環境会計】

環境保全への取り組みを、投じたコストやその効果への両面からできるだけ定量的に把握し、効率的かつ効果的に環境活動を行うため、環境会計を導入しています。

平成21年度の環境保全のための投資額は21億45百万円、費用額は3億4百万円でした。新型車両の導入・電気設備の改良等による省エネルギー化やパーク&ライド駐車場整備、環境教育やイベントを通じた啓蒙など、環境保全に対して積極的な活動を行いました。今後も環境保全コストの管理やその効果の分析を行うことにより、より一層効果的な環境保全活動に取り組んでいきます。

■環境保全コスト

(単位:千円)

内 容		投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト		2,144,304	191,484
内 訳	①公害防止コスト	騒音対策:ロングレール化、PCマクラギ化、レールの重量化、防音車輪導入など 大気汚染対策:アスベスト処理など 水質汚染対策:排水・汚水処理設備の設置、改修など	821,603 90,243
	②地球環境保全コスト	パーク&ライド駐車場の整備、き電線改良、シリコン整流器更新、VVVF制御化など	1,320,780 10,887
	③資源循環コスト	廃棄物処理・処分、廃棄物のリサイクルなど	1,920 90,352
(2)上・下流コスト		グリーン購入	1,284 61,237
(3)管理活動コスト		人件費、会議費、ISO活動維持費、環境教育費用、環境報告書の作成、イベント費用など	0 51,067
(4)社会活動コスト		環境保全を行う団体への支援など	0 310
環境保全コストの合計		2,145,588	304,099

■環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を示す指標	
		指標の分類	指標の値(量)
(1)事業エリア内で生じる環境保全効果 (事業エリア内効果)	①事業活動に投入する資源に関する効果	鉄道電力	9,394,866kWh
		太陽光発電	974kWh
		水道水	11,859m ³
(2)上・下流で生じる環境保全効果 (上・下流効果)	②事業活動から排出する環境負荷 および廃棄物に関する効果	使用済み乗車券の リサイクルによる 廃棄物抑制量	32t
		③事業活動から算出する財・サービスに関する効果	—
(3)その他の環境保全効果	④輸送その他に関する効果	—	—

■環境保全対策に伴う経済効果

(単位:千円)

効果の内容		金額
収 入	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	61,697
費 用	省エネルギーによるエネルギー費用削減	118,705
	省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	3,622
合 計		184,023

○集計期間:平成21年4月1日～平成22年3月31日

○集計範囲:名古屋鉄道㈱の事業範囲

○確実に把握が可能で、環境目的が高い項目を計上

○金額は税抜き、千円未満を切り捨てて表示

○環境省「環境会計ガイドライン」および(社)日本民営鉄道協会「民鉄事業環境会計ガイドライン」に準拠

○事務用品におけるグリーン購入費用は全額計上

○費用に減価償却費は含まず

鉄道を利用すること、それは地球温暖化防止への近道です。

「電車で、ECO MOVE。」始めてみませんか？

地球環境への問題意識が高まる中、皆さまが普段心がけている「エコ活動」にはどのようなものがあるでしょうか。エコバッグを持ち歩き、レジ袋を断ったり、電気をこまめに消したり、家電製品を省エネタイプのもの買い替えたり、いろいろな活動が思い浮かぶと思います。

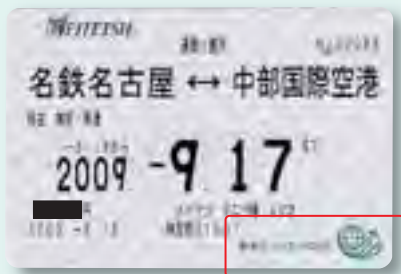
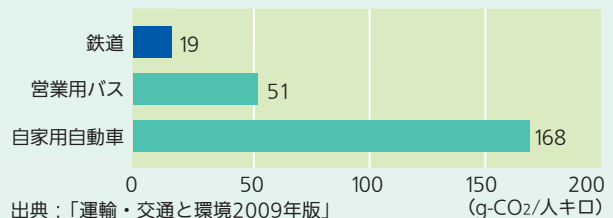
しかし、身近な「エコ活動」の一つに「鉄道を利用すること」が非常に有効であることをご存知でしょうか。地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素の、国内で排出される約2割は人や物の移動に関わる運輸部門によるもので、そのうちのほぼ半分がマイカーによるものです。一方で、一度に多くの人を運ぶことができる鉄道は、そのわずか3%にすぎません。さらに、1人を1km運ぶ際に排出される二酸化炭素量を比較しても、鉄道はマイカーの約9分の1となり、鉄道を利用することがいかに環境にやさしい移動手段であるかをお分かりいただけると思います。マイカーの環境性能は日々向上していますが、その保有台数の多さが地球環境へ大きな負荷をかけています。

名古屋鉄道では、電車で移動するという行動そのものが、環境にやさしい行動であることをもっと知っていただきたいという思いから、平成18年6月から「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しています。「ECO MOVE(エコムーブ)」とは、電車を使って「環境にやさしい移動をしよう」「環境にやさしい行動をしよう」というメッセージを込めた当社オリジナルのエコキャッチフレーズです。キャンペーンを象徴する「エコムーブマーク」を定期乗車券や当社発行のパンフレット類、また社員の名刺に印刷するなど、皆さまの身近なエコ活動の一つとしての鉄道利用を呼びかけています。



省エネルギー車両(3300系)

■1人を1km運ぶ際に排出する二酸化炭素量(平成19年度)



「エコムーブマーク」デザインのコンセプト



電車で、ECO MOVE。

「ecology(環境)」の頭文字「e」をベースに、環境保全の象徴として誰もが認識できる「地球」をデザインの中心に据えています。親しみやすい「笑顔の電車」が、弧を描きながら上昇していくさまは、鉄道事業の躍動感とともに、環境にやさしい移動手段としての使命の永続性を表現しています。遠目には、地球のまわりをコトコト走り続ける、人にも環境にもやさしい電車を連想させ、鉄道事業と環境との調和を、柔らかに、かつ明快に示しています。

国土交通省「新たな温室効果ガス削減環境事業モデル」 非接触型交通系ICカードを活用した インターモーダル推進事業

名古屋鉄道は、平成21年6月から平成22年3月まで、名古屋大学大学院環境学研究科および株式会社電通 中部支社等※と共同で、「非接触型交通系ICカードを活用した地域連携型コミュニティサイクル・カーシェアリング事業構築による、インターモーダル推進事業」を実施しました。これは、国土交通省の「新たな温室効果ガス削減環境事業モデル」に選定され、助成を受け実施したもので、ICカード乗車券を活用したシームレスな都市交通システム構築のための事業性や普及方法、効果等を調査・検討しました。

※名古屋大学大学院環境学研究科、(株)電通 中部支社、(株)電通リサーチ 名古屋支社（協力：愛知県、名古屋市、豊田市、名鉄協商㈱、名古屋駅地区街づくり協議会）

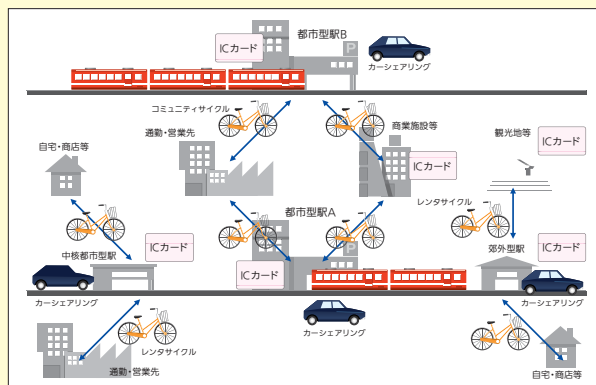
「インターモーダル」とは、鉄道やバス、自動車などの輸送手段の利点を組み合わせて、環境負荷を軽減する交通システムのことです。移動手段の72%が自動車という自動車依存型の中京都市圏※では、いかに公共交通の利用促進を図るかが重要な課題となっています。

※数値は平成18年度（都市交通年報）

本事業モデルでは、線路が結ばれていない駅間や駅から目的地まで、1枚のICカードを使ってコミュニティサイクルやカーシェアリングを利用できる交通システム（図1）を構築し、自動車から公共交通への転換を図り、温室効果ガス削減をめざすものです。期間中、名古屋都市圏の居住者を対象にしたアンケート調査や、カーシェアリングの実証実験等を実施しました。

居住者アンケートの結果では、約9割の回答者が本事業モデルの必要性を認識しています（図2）。また、ICカード乗車券を活用することにより、コミュニティサイクルやカーシェアリングの利用意向が上昇することが確認できました（図3）。本事業が普及し、主な移動手段が自動車から公共交通に移行することにより、名古屋市・豊田市中心部で年間約30万t-CO₂排出量削減が期待できると試算しています。

しかし、本事業導入にあたっては、採算性の低いコミュニティサイクルは行政による支援が必要不可欠で、カーシェアリングはカーシェアリングそのものの認知拡大のための方策を検討する必要があります。当社では、今後もインターモーダルの推進について継続して検討していきます。

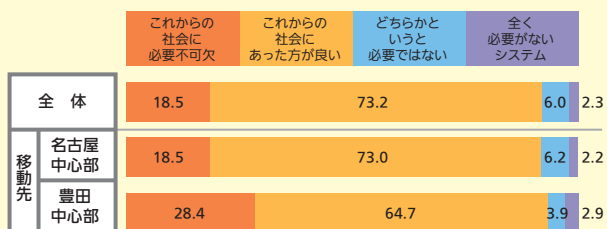


（図1）事業モデルイメージ図



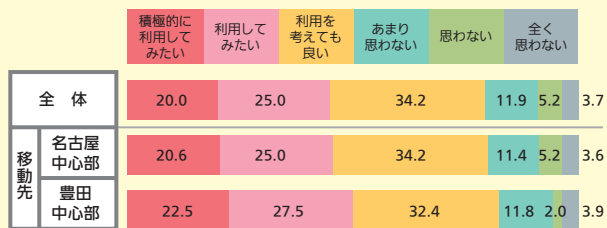
カーシェアリング実証実験

Q1 コミュニティサイクルやカーシェアリングを整備して、出発地と目的地の間をより移動しやすくし、公共交通の利用を促進しようという取り組みについてどう思いますか。



（図2）アンケート調査結果①

Q2 電車やバスなどの公共交通機関を利用できるICカード乗車券で、コミュニティサイクル、カーシェアリングも利用できるようになれば、あなたは利用してみたいと思いますか。



（図3）アンケート調査結果②



名鉄グループの取り組み

名鉄グループは、鉄道・バスなどの交通事業をはじめ、運輸、流通、レジャー、不動産など、皆さまの生活に密着した幅広いサービスを展開する企業グループとして、地域に貢献するべく環境活動に取り組んでいます。

カーシェアリング・サービス「カリテコ」の開始

名鉄協商では、平成21年11月からカーシェアリング・サービス「カリテコ」を開始しました。「カリテコ」とは、「車:CAR」「情報:IT」「エコ:ECO」を組み合わせた本サービスの名称です。車をシェア(共有)することで、自動車総台数を減少させ、その生産過程で発生するCO₂量を削減できるだけでなく、渋滞緩和や交通事故の減少にも寄与することができます。

現在「カリテコ」が利用できる拠点は名古屋駅、栄駅を中心に20ヵ所で、さらに拠点を拡大中です。また、平成22年1月から、名古屋市内を中心に約700ヵ所の同社パーキングを、カーシェアリング利用中に無料で利用できるサービスを始め、利用者の利便性向上を図っています。

本サービスを通じて、車中心の生活スタイルをもつ東海地区を中心に事業展開している名鉄グループの企業として、グループが持つ公共交通機関(鉄道・バス)との密接な連携により、「車」と「鉄道・バス」と「人」のよりよい関係を形成するために、パーク&ライドからさらに進んだライド&カーシェアという、新しい地域交通ネットワークの構築をめざしていきます。



名鉄協商 カーシェア
カリテコ



カリテコステーション

カリテコの特長



ガソリン・
駐車場代不要



24時間365日
利用可能



最短30分から
15分単位で利用可能



環境に配慮した
ECOカーを採用



PC・携帯電話で
カンタン予約



名鉄協商パーキング
ご利用無料

お問い合わせ

名鉄協商株式会社 カーシェア事業部 052-582-2495



運輸部門では、鉄軌道をはじめ、乗合バス、観光バス、タクシー等の旅客輸送事業や、トラック、海運、航空等の事業を中心に、幅広く地域の皆さまの生活に根ざした事業を展開しています。

“沿線花いっぱい運動”の実施

豊橋鉄道グループでは、地域の皆さまから信頼され親しみをもって利用していただくための環境づくりとして、グループ社員全員で「豊橋グループ グリーン運動」を本年度も実施します。活動の一環として昨年度には“沿線花いっぱい運動”を実施しました。この運動は、花をテーマに、豊橋鉄道渥美線沿線の“緑化・景観整備”を行い、楽しさ、親しみを演出するほか、地域との連携を図るもので、渥美線沿線15カ所に“菜の花畑”を整備しました。

お問合せ 豊橋鉄道株式会社 営業企画部 0532-53-2131



渥美線沿線に整備した菜の花畑

路線バス停留所にソーラースポットライトを導入

名鉄バスでは、平成22年3月に、一般路線、空港線の全停留所約2400カ所に、時刻表を照らすソーラースポットライトを導入しました。このライトは、同社が開発に協力し、東洋ライト工業㈱が発売する「光光息子(こうこうむすこ)Ⅱ」で、日中に太陽光パネルで発電した電気をニッケル水素電池に蓄え、日が陰った後、人が近づくとセンサーが感知して発光ダイオード(LED)が点灯し、時刻表を照らす環境にやさしい照明です。これにより、夜間に時刻表が見やすくなることに加え、防犯灯の役割も期待できます。

お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0780



ソーラースポットライトを導入した停留所

全営業所でグリーン経営認証取得

宮城交通では、平成22年3月に全7営業所で「グリーン経営認証」を取得しました。これは、燃費や低公害車の導入、廃棄物処理方法など全6項目において基準を満たすことで認証される制度で、東北管内に本社を置くバス会社で全営業所認証取得したのは当社が初めてです(東北運輸局調べ)。環境活動の一環として、車両後部ガラスに認証ステッカーを貼付し、当社の取り組みをPRしています。また、グループ会社のミヤコーバスにおいても3営業所で取得しており、グループ全体で環境に配慮した営業所の体制づくりを進めてまいります。

お問合せ 宮城交通株式会社 安全管理部 022-771-5313



グリーン経営認証ステッカー



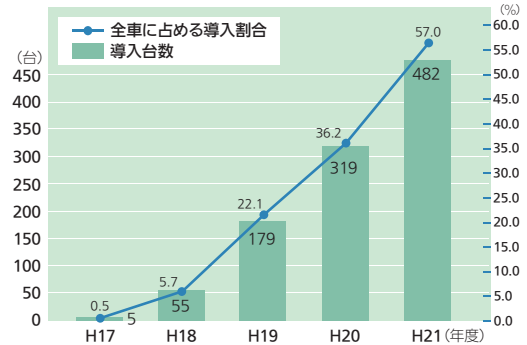
アイドリングストップ車の導入

名鉄交通では平成17年度から車両代替時にアイドリングストップ機能つき車両導入を積極的に進めてまいりましたが、平成21年度は163台導入し全車両の57%がアイドリングストップ車になりました。

平成22年度も積極的な導入を行い、CO₂の排出削減と燃費の向上に努めていきます。

お問合せ 名鉄交通株式会社 グリーン経営推進室 052-331-2221

■ アイドリングストップ車導入の推移



燃費向上および輸送効率向上による環境対策への取り組み

名鉄運輸では、CNG車・ハイブリッド車など環境対策車の導入に努めています。また、燃費の向上については、前年から1%向上させることを目標として毎年取り組んでいます。

さらに、平成21年度には全国的な路線運行網の見直しを行い、方面別の輸送量に見合った必要最低限の運行便数とすることで、全運行便の約8%に相当する79便を削減することによる輸送効率の向上を図り、環境負荷軽減にも寄与しています。

お問合せ 名鉄運輸株式会社 総務部 052-935-5721



ハイブリッド車

グリーン経営認証と環境対策への取り組み

中国名鉄運送では、平成21年にすべての営業所で「グリーン経営認証」を受けました。

「分別回収BOX」を設置し、「ゴミになるものはできるだけ使用しない」を全社員で実践しています。引越に見られるように運送業にとって梱包資材は必需品ですが、お客さまの要望には最大限応え、なおかつゴミを出さないような方策に努めています。

運転についても、アイドリングストップなどの環境対応は勿論ですが、走行時の法定速度遵守を全車両が実施しており、これも環境負荷を小さくしつつ、安全対策にも効果あるものとして取り組んでいます。

お問合せ 中国名鉄運送株式会社 総務部 083-974-4180



グリーン経営認証登録証

グリーン経営認証とエコドライブ

名鉄ゴールデン航空では、グリーン経営認証を8店舗で取得し、積極的に環境負荷の低減に取り組んでいます。また、認証を取得した店舗だけに限らず、全営業所において、グリーン経営認証に沿ったエコドライブ運転を推進しています。

今期は、1回における給油を30リットルと制限し、ドライバー一人ひとりに対して、燃費に対する関心を持たせ、燃費向上の意識を高めるとともに、給油量の削減にも努めています。また、アイドリングストップの指導により、無駄な燃料使用を減らす取り組みを実施しています。

お問合せ 名鉄ゴールデン航空株式会社 03-3669-5641



グリーン経営認証取得店舗車両

不動産部門では、土地建物の販売、賃貸借、不動産の仲介業、建築工事の設計・施工・監理などの事業を展開しています。また、情報・電気・通信等の分野で幅広く技術開発およびサービス提供を行っています。

メイフィス名駅ビルでCASBEEのAランク取得

名鉄不動産は、平成22年4月に竣工した「メイフィス名駅ビル」において、建築物の環境性能で評価・格付けする手法であるCASBEE（建築物総合環境性能評価システム）のAランクを取得しました。

太陽光発電や屋上緑化はもちろん、オフィスには大型のガラスサッシを装備することで、自然光をしっかりと取り込んでいるほか、省エネ対応ガラスの採用により、冷暖房効率を高めるなど、環境に配慮したプランニングになっています。



メイフィス名駅ビル

お問合せ 名鉄不動産株式会社 ビル事業本部 052-581-1275

太陽光発電システムの導入

メイエックは、環境負荷の軽減を図るため、本社南館屋上に太陽光発電設備を設置しました。これは、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の太陽光発電新技術等フィールド事業に採択され、貴重資源であるシリコン使用量が少なく済む薄膜太陽電池パネルの、データ収集・分析について共同研究を行うものです。1日当たり快晴時で約100kWhの発電量があります。太陽光発電データをリアルタイムでNEDOに送付し、それを最適なシステム構築のための資料としています。

今後、この共同研究を通じ、環境に対する意識をさらに高め、太陽光発電の普及に貢献していきます。



太陽光発電設備

お問合せ 株式会社メイエック 第1営業部 052-678-1773

TOPICS

金山プラザ照明器具をLEDにリニューアル

名鉄産業では、平成21年5月に金山プラザ3階飲食店通路のダウンライト照明を、ハロゲンからLEDへリニューアルしました。LEDはエネルギー効率がが高く、長寿命・低消費電力など優れた特性を持つ、環境にやさしく省エネに効果がある照明器具です。

161灯の器具を交換したことにより、55.54Aあった電流値が、10.46Aへ約5分の1に軽減され、電力使用量が大幅に削減できました。



LEDのダウンライト照明

お問合せ 名鉄産業株式会社 情報技術部 052-821-1562



流通部門では、百貨店事業や、駅構内における売店・コンビニエンスストア経営等の小売事業、駐車場、カーリース事業など、多岐にわたって事業を展開しています。

お客さまの気持ちを大切に考えるエコ

名鉄百貨店が「フレンドリーな百貨店」をめざすのは、環境にやさしい商品のご提案はもちろん、包装の適正化等のサービスにおいても同じです。

「大切に着ていたお気に入りの服を、ただ捨てることはしたくない…」そういうお客さまの気持ちを大切にしたいと考え、平成22年3月、お取引先と共同で、“衣料引き取りキャンペーン”を行いました。お預かりした衣料は、お取引先を通じ軍手や毛布等にリサイクルされます。

また、お客さまがお気軽にパーク&ライドなど“環境にやさしい交通手段”でご来店いただけるように、鉄道沿線46駅58カ所の契約駐車場におけるお買上げ金額に応じた駐車料金サービスをはじめ、各種サービスを行っています。

お問合せ 株式会社名鉄百貨店 施設部ISO担当 052-585-2470



衣料引き取りキャンペーン

「MEITETSU ECO DIESEL OIL」を販売

名鉄産業では、平成20年7月から名鉄グループのバス・トラック会社を中心とした運輸会社向けエンジンオイル「MEITETSU ECO DIESEL OIL」を販売しています。このオイルは、「名鉄」の名を冠した名鉄産業初のPB商品で、従来の製品より交換サイクルを長くすることが可能となり、整備費や廃油排出量の削減につながるほか、平成15年規制の排出ガス規制に対応した環境にやさしいエンジンオイルです。

すでに名鉄バス、名鉄観光バス、宮城交通、名鉄運輸などが採用しており、またグループ内外の運輸会社へ広く採用されるよう積極的に提案中です。

お問合せ 名鉄産業株式会社 エネルギー事業部 052-821-1292



MEITETSU ECO DIESEL OIL

CO₂排出削減事業の認証を取得

名鉄クリーニングは、平成21年7月に、国内クレジット認証委員会（経済産業省主管）において、CO₂排出削減事業の認証を取得しました。国内クレジット制度とは、CO₂の削減を義務づけられている大企業（自主行動計画参加企業）が、義務づけのない中小企業（自主行動計画非参加企業）のCO₂削減事業に対し、資金・技術面の支援を行い、これによって削減できた実績をCO₂ 1t当たりの契約単価で購入する制度です。

同社では、一昨年末補助金を活用したESCO事業により導入した高効率貫流式ガスボイラーによって燃料の節減を図ると共に、従来に比べ年間約1000tのCO₂削減が予定されており、今回の認証取得で、平成21年度から4年間にわたってこの排出権を売却していきます。

お問合せ 株式会社名鉄クリーニング 052-501-5511



貫流式ガスボイラー

国内クレジット制度排出削減事業 承認証



レジャー・サービス部門では、ホテル事業やアミューズメント事業、博物館明治村をはじめとした文化テーマパーク事業や、ロープウェイ事業などを展開しています。さらには高速道路サービスエリア内の売店等の経営、ラーメン店事業等、幅広く事業を展開しています。

生きもの観察会を実施

名鉄インプレスが平成22年4月から運営受託している神戸市の須磨海浜水族園では、地元の小学生を対象に、生きもの観察会を実施し、地域と一体となった環境教育を推進しています。海や川にどのような生きものが生息しているか採集し、名前を調べたり、観察したりしながら、自然の中で生きる生きものとその環境について楽しく学ぶことで、生きものを大切にすることを育むとともに、身の周りの自然や環境にやさしい生活の実践について考えるよい機会となっています。

お問合せ 神戸市立須磨海浜水族園 078-731-7301



生きもの観察会の様子

資源の有効活用

名鉄レストランでは、業務から出る使用済みてんぷら油を、主にグループ会社を通して、リサイクル業者に再生資源として売却し、資源のリサイクルに貢献しています。精製されたバイオディーゼル燃料は、グループバス会社等で使用の他、流通部門におけるCO₂排出の削減に役立っています。また、以前は引き取り料を支払って回収を依頼していた廃油を有価物として売却できるため、処分費用の削減にも効果があります。

さらに全店舗の割り箸をリユース箸に変更するなど、廃棄物の削減と資源の有効活用に取り組んでいます。

お問合せ 株式会社名鉄レストラン ハイウェイ事業部 052-682-7751



燃料化プラント

TOPICS

エコドライブ教習の導入

名鉄自動車学校、名鉄自動車専門学校では、平成21年7月から、エコドライブ体験教習を行っています。

「エコドライブは環境にやさしいだけでなく、人にもやさしく経済的で、安全運転にも繋がる」をテーマに、適正なタイヤの空気圧、ふんわりスタート、早めのアクセルオフ、アイドリング・ストップ等を取り上げ、更には電動スクーターの導入を図るなどして、少しでも燃費を向上させ、CO₂排出量を削減するためのエコドライブを推進して、地球温暖化現象に関する意識を高める取り組みを行っています。

今後も、安全運転とエコドライブの両面において『環境にやさしい初心ドライバーの育成』に一層、努めていきます。

お問合せ 学校法人名鉄学園 自動車学校事務局 052-891-4191



タイヤの空気圧をチェック

社会 活動報告

地域の皆さまに、
安心、快適を提供し
地域社会の発展に貢献します。



安全への取り組み

鉄道事業にとって、一番大切なものは「安全の確保」です。
お客さまの信頼に応えるべく、日々努力し、安全・安心・安定輸送を追求しています。

【安全に関する基本方針と安全重点施策】

平成18年10月に「鉄道安全管理規程」を定めて安全管理体制を強化するとともに、「安全に関する基本方針」および「安全重点施策」を策定し、会社が一丸となって安全性の向上に努めています。

安全に関する基本方針

会社一丸となって、安全・安心・安定輸送と快適なサービスを提供することにより、地域社会の発展に貢献していきます。

- 1 事業の推進に当っては、安全の確保をすべてに優先させます。
- 2 法令・規則を遵守し、高い倫理観を持って事業活動を行ないます。
- 3 安全意識を高く持ち、社会の変化に対応した体制をつくります。
- 4 事故が発生した場合は、一致協力してお客さまの安全を第一に行動します。
- 5 常に安全に関する知識・技能の習熟に努めます。

平成22年度 安全重点施策

- 1 有責事故の撲滅を目指し、ヒューマンエラー・施設故障の削減
- 2 安全に関する情報を共有し、異常時対応力の向上
- 3 教育・訓練の充実と安全関連設備の整備継続

各部署は、安全重点施策に基づき、部署ごとの業務内容にあわせた具体的目標を作成し、取り組みを行っています。

【安全管理体制】

経営トップによる現業職場とのコミュニケーション確保

社長や安全統括管理者をはじめとする役員は、定期的に職場巡視を実施し、輸送の安全確保の取り組み等について確認するとともに、現業職場の会議に出席し、意見交換を行うなど、現場とのコミュニケーションを確保しています。



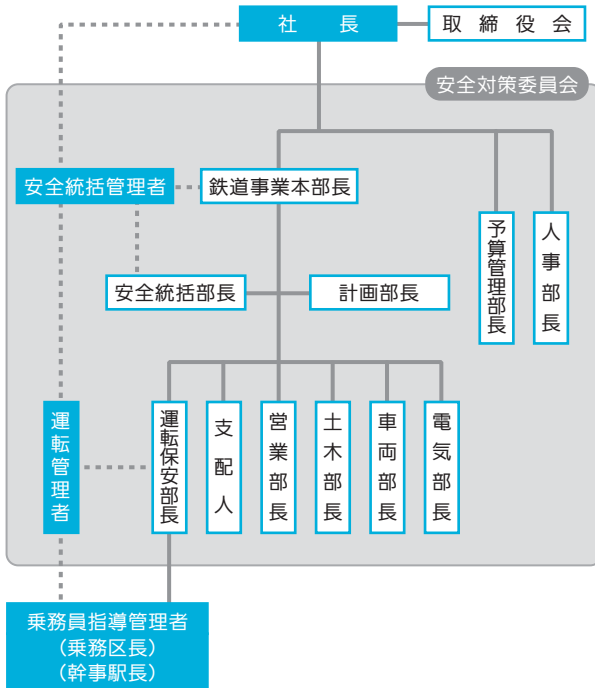
山本社長による職場巡回

安全管理体制

社長を最高責任者とし、安全統括管理者、鉄道事業本部長、運転管理者、運転保安部長、乗務員指導管理者および関係部長などの役割を明確にした安全管理体制を構築しています。

安全対策委員会は、輸送業務の実施および管理の方法を確認し、事故の再発防止対策等安全性の向上を図るための施策を推進しており、年1回以上開催しています。

安全管理体制図



【安全性向上対策】

列車の安全対策

■ATS (列車自動停止装置)

ATSは、列車が信号または曲線などで、設定された制限速度を超えて通過すると自動的に非常ブレーキが作動する装置です。



ATS車上装置



ATS地上装置

■防護無線

防護無線は、列車が事故などの緊急時に近くにいる他の列車に警報を無線で発報するもので、乗務員が防護無線装置のボタンを押すと、付近を走行中の列車に警報が列車無線を通じ発信されます。この警報を確認した列車は直ちに停車します。名古屋鉄道では、防護無線の搭載を進めており、平成22年6月末現在の搭載率は89.8%です。



■車両の検査

車両の保守については、7ヵ所の検査場・検車区において定期的に検査を行い、安全運行に努めています。また、車両の脱線防止対策として、車輪にかかる重量バランスを測定し、安定した走行ができるよう厳密に管理しています。



尾張旭検車区

安全への投資

名古屋鉄道では、安全関連設備として、平成21年度は約100億円を投資しました。平成22年度は安全関連設備への投資は約47億円に留まりますが、これは新車両導入が一段落したことや、大型保守用機械が平成21年度に竣工したことなどによります。安全・保安対策、車両の新造、高架化、土木・電気施設の改良、踏切保安設備の新設・改良などを計画的に実施し、さらなる安全性の向上を推進します。

	安全関連設備投資	その他の設備投資	計
平成21年度(実績)	100億円	32億円	132億円
平成22年度(計画)	47億円	81億円	128億円

駅の安全対策

■列車非常通報装置

ホームからの転落時などに、お客さまや駅係員が駅構内に設置したボタンを押すと、表示装置により列車の乗務員に駅構内で異常があることを知らせます。平成21年度は9駅に設置し、これにより計99駅に同装置が設置されました。今後も順次導入を進め、平成23年度までには121駅において設置する予定です。

お客さまへのお願い

ホームから転落したお客さまを見受けられるなど、列車に危険を知らせたいときは、ホームに設置されている非常通報ボタンを押してください。



列車非常通報ボタン

■転落検知装置

乗降車時にお客さまが列車とホームの隙間から転落された場合に、ブザーの鳴動および表示装置により列車の乗務員に異常を知らせます。現在3駅に設置しています。



■車両転落防止幌

ホームから車両連結部への転落防止を図るため、車両固定連結部の車体側面に設置を進めています。平成21年度6月末現在で、315編成中214編成に設置し、整備率は67.9%です。



踏切・線路の安全対策

■踏切障害物検知装置

踏切内での落輪や停滞などによる踏切事故を防ぐため、交通量の多い主要踏切に踏切障害物検知装置を設置しています。しゃ断桿が降下を完了してから、踏切内に何らかの障害物があると検知した場合、表示装置により列車の乗務員に異常があることを知らせるとともに、連動するATSを作動させます。



お客さまへのお願い

警報機が鳴り出したら、絶対に踏切を渡らないでください。万一、車が踏切内に閉じ込められたら、車でしゃ断機のさおを押し出して、急いで踏切の外へ脱出してください。

■オーバーハングせん光灯

道路に張り出す形で設置するせん光灯をオーバーハングせん光灯といいます。遠くから踏切に接近する自動車に対して、視認性を向上し警告することができます。



■光るしゃ断桿

交通量の多い踏切のしゃ断桿に、超高輝度LEDを順次取り付け、警報開始と同時に点滅させドライバーに注意喚起しています。



■線路の保守

保線業務は安全輸送の要であり、定期的に線路巡視を行い、線路の状態を点検・確認して適正な線路状態を保っています。また、レール探傷やレール削正、道床のつき固めなど安全のための線路の保守を行っています。

自然災害への対策

■降雨対策

降雨時における土砂崩壊などによる運転事故を未然に防止するため、沿線主要駅に自動雨量計を設置し、計測された雨量を基に列車の運転に関する規制を行っています。自動雨量計は、現在25カ所に設置しています。



自動雨量計

■強風対策

台風、低気圧接近時など強風による運転事故を未然に防止するため、沿線の橋りょう、高架部付近に風速計を設置し、計測された風速値を基に列車の運転に関する規制を行っています。風速計は、現在12カ所に設置しています。



風速計

■地震対策

地震が発生した場合において、沿線9カ所に設置した地震計で計測された地震加速度を基に列車の運転に関する規制を行っています。震度が概ね2.5ガル(震度4相当)以上の場合、列車無線を通じ、各列車に対して自動的に停止指示を通報します。



地震計

■早期に地震を警告するシステムの導入

大規模地震発生時の被害を防止あるいは軽減するためのシステムを平成19年10月に導入しました。これは、気象庁から配信される「緊急地震速報」を受け、社内システムで演算した結果、震度4以上の地震が沿線で発生すると予測した場合は、列車無線を通じ、各列車に対して自動的に停止指示を通報するものです。

緊急時対応訓練

■総合事故復旧訓練

緊急時に対応できるようさまざまな訓練を実施しています。平成21年度は、築港線・東名古屋港駅構内において、踏切障害事故を想定した避難誘導訓練および列車脱線事故復旧訓練を実施し、約250人の社員が参加しました。



避難誘導訓練



脱線事故復旧訓練

鉄道テロ対策

■防犯カメラの設置

テロ防止を視野に入れた防犯カメラについては、名鉄名古屋駅などに設置しています。また駅集中管理システム導入駅にも、駅務機器管理用の監視カメラを設置しており、防犯目的としての使用が可能です。



■「目に見える」巡回警備

主要駅に警戒腕章を配布し、係員が警戒巡回等を実施する際に着用することによって、テロの抑止効果を高めています。



■不審物発見時等に関するご協力をお願い

ポスターや列車内の電光表示器での掲示、また駅構内・車内放送等により不審物発見時等の情報提供をお願いしています。





お客さまとのかかわり

名古屋鉄道は、皆さまに安心してご利用いただける人にやさしい鉄道づくりをめざし、駅施設等ハード面の改良とともにソフト面でのバリアフリー化にも取り組んでいます。

CS向上活動の推進

多様化するお客さまのニーズに的確にお応えし得る接客サービスを提供するため、CS向上活動を積極的に展開しています。鉄道事業本部長を委員長とするCS推進委員会のもと、各幹事駅・乗務区にCS推進専任者・CS推進委員を配置し、本社から現場の第一線まで一体となって活動しています。

本社および現場スタッフで構成される拡大CS推進委員会では、外部講師によるCS講演会を実施するほか、接客場面を想定した接客対応事例発表（ロールプレイング）や車内アナウンスコンテストなど、CSを多面的に捉えた催しを通して全社レベルの向上につなげています。



接客対応事例発表（ロールプレイング）

名鉄お客さまセンター

平成16年10月、お客さまへのサービス向上を図るため、「名鉄お客さまセンター」を開設しました。お客さまからの各種お問合わせに対し迅速かつ適切に対応することはもちろん、お寄せいただいたご意見・ご要望等からは、問題点や課題を抽出し、サービス向上や業務改善に生かしています。

名鉄お客さまセンター TEL 052-582-5151
営業時間 平日8:00～19:00
土・日・休日および年末年始8:00～18:00

サービス介助士

お年寄りやお体の不自由なお客さまにも快適にご利用いただけるよう、「サービス介助士」の有資格者を主要95駅に539名配置しています。（平成22年6月1日現在）専用の名札を着用し、資格を生かした細かい配慮により車いすの操作などのお手伝いを行っており、今後も順次増員を図っていきます。



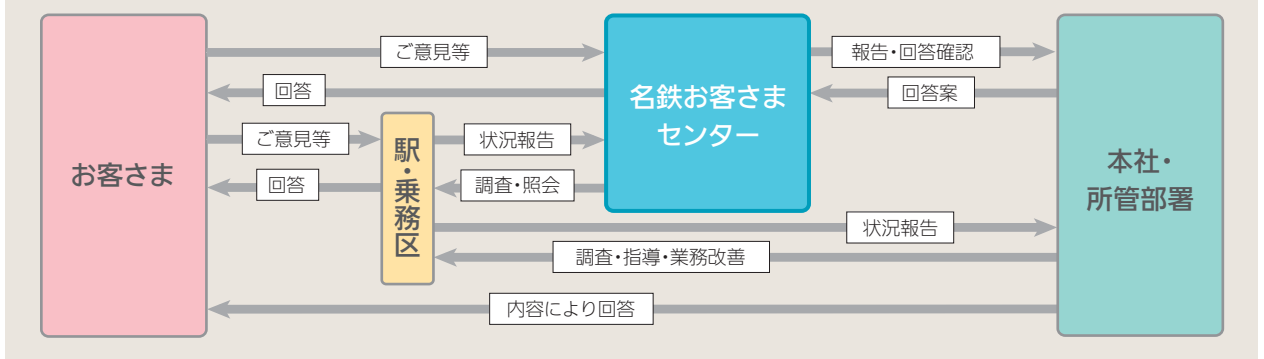
「耳マーク※」の駅窓口への掲出

平成18年6月より、耳の不自由なお客さまに安心して鉄道をご利用いただくため、駅の窓口に、「耳」をデザインした「耳マーク」のステッカーを掲出し、筆談等による案内を積極的に実施しています。

※「耳マーク」は、(社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会が、耳の聞こえない人々の存在と立場を社会一般に認知していただき、コミュニケーションの配慮などの理解を求めていくために考案されたものです。

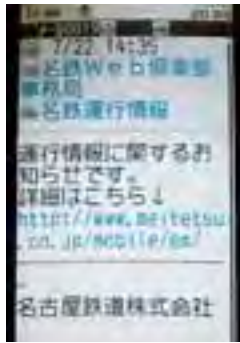


■ご意見等の受付・回答の流れ



列車運行情報メール配信サービス

列車運行情報をお客さまに迅速にお伝えできるよう、平成20年5月から「運行情報メール」配信サービスを開始しました。これは、運行支障等により当社のホームページに「運行情報」が掲出されたことを、お客さまの携帯電話等にメールでお知らせするものです。これにより、お客さまが駅にお越しただく前に電車の運行状況を把握できるような環境整備の充実を図りました。



遺失物管理システム

電車内や駅でのお忘れ物を照会できる「遺失物管理システム」を、名鉄お客さまセンターや有人駅に導入しています。駅係員がお忘れ物をお預かりした日時や場所、特徴などをシステムに登録することにより、お忘れ物の状況をリアルタイムで検索・把握することが可能になり、容易にお客さまへのご案内ができるようになりました。

見やすい案内表示の実施

お客さまに駅をスムーズにご利用いただくため、駅の案内表示類は「ユニバーサルデザイン」の考え方に沿った、ピクトグラム表示、外国語表記での整備を積極的に進めています。

特に、名鉄名古屋駅、金山駅、中部国際空港駅などの駅においては、5カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語)の案内表示や駅名をアルファベット順に並べた運賃表の整備等、外国からのお客さまにもご利用いただきやすい駅の案内表示を行っています。

今後も、お客さまの視点に立ち、掲出方法に工夫をしながら、便利にご利用いただきやすい駅を実現してまいります。



ピクトグラム



アルファベット順に並べた運賃表

マナーアップキャンペーンの実施

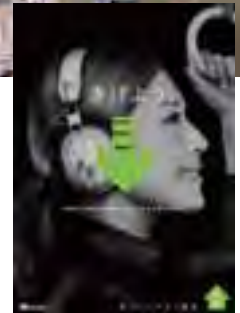
お客さまに気持ち良く鉄道をご利用いただけるよう、乗車マナー向上のご協力をお願いしていますが、その一環として平成22年3月28日から4月16日まで、「気づこう、マナー違反。グッドマナー、グッドライドキャンペーン」を実施しました。

今回は新たな取り組みとして、キャンペーン初日の3月28日に、4月から新小学生となるお子様15名で『名鉄マナーアップ隊』を結成し、同隊員として「正しい電車の乗り方」を学んだ後、金山駅でマナーアップの呼びかけとノベルティの配布にご協力いただきました。

その他、駅や車内へのポスターの掲出、主要駅の自動改札機へのステッカーの貼付、車内放送や駅構内放送などで乗車マナー向上を呼びかけました。



「名鉄マナーアップ隊」によるノベルティ配布の様子



駅掲出ポスター

駅の禁煙化

健康増進法の施行に伴い、受動喫煙の防止を図るため、平成17年1月から全駅で駅構内の終日全面禁煙化を実施しています。

「AED」の設置

東岡崎駅、名鉄名古屋駅、金山駅、神宮前駅、中部国際空港駅、鳴海駅、犬山駅、太田川駅の計8駅にAED(自動体外式除細動器)を計14台設置しています。設置駅にはAEDの取扱いの研修を受けた駅係員を配置しています。





地域社会とのかかわり

名鉄グループでは、事業を通じて永く社会に貢献していくため、さまざまな場面で地域の皆さまと連携し、地域発展のお役に立ちたいと考えています。

「名鉄でんしゃまつり」の開催

ご家族向け鉄道イベント「名鉄でんしゃまつり」を平成22年5月に舞木検査場で開催し、約4,000名にご参加いただきました。会場では、運転台乗車体験や「電車と綱引き」など、名鉄電車に親しんでいただく多彩なイベントを実施しました。また会場内に「でんしゃって『エコ』コーナー」を設け、当社の環境への取り組みや、鉄道の環境優位性に関するPRを行いました。



36tクレーンによる作業実演

地元タイアップキャンペーンの展開

沿線の自治体と連携した観光キャンペーンを積極的に展開しています。平成21年は愛知県犬山市、旧東海道沿いの7自治体などと連携し、名鉄が持つ駅・電車などの資産と、沿線にある豊富な観光資源を生かして、沿線観光地の魅力を引き出し、活性化する取り組みを展開しました。

今後も、沿線各地と連携を図りながら、沿線価値の向上につながるキャンペーンを展開していきます。



春の犬山キャンペーンポスター

名古屋駅地区街づくり協議会への参画

平成20年3月に発足した「名古屋駅地区街づくり協議会」は、名古屋駅地区の活性化と地域価値を維持向上させる趣旨に賛同した、同地区に土地や建物を所有する企業等45社(平成22年8月現在)で構成され、名古屋鉄道および名鉄グループ4社(名鉄協商、名鉄不動産、名鉄百貨店、名鉄レジャック)も参画しています。

同協議会は、駅周辺の活性化に向けた課題を共有し、名古屋駅地区を多くの方が訪れ・働き・学び・住みたい街にするため、事業企画委員会・都市再生委員会・運営委員会の3つの専門委員会を発足させ、街のにぎわい創出のための企画や、街づくりガイドラインの検討など、ハードとソフトが連動した総合的なエリアマネジメントに取り組んでいます。同協議会の活動はホームページでも随時情報を提供しています。

名古屋駅地区街づくり協議会ホームページ
<http://www.nagoyaeki.org/>



ワークショップ

「名鉄沿線おでかけマガジンWind」の発行

沿線情報や営業情報を提供するため、「名鉄沿線おでかけマガジンWind」を発行しています。毎月1回、9万部発行し、名鉄沿線主要駅で無料で配布しているほか、ホームページでもご覧いただけます。



名鉄沿線おでかけマガジンWind

鉄道のお仕事体験“たい・けん・がく!”の開催

平成21年8月から小学生を対象に、鉄道の仕事を実際に“体験・見学”して学ぶことができる特別イベント「たい・けん・がく!」を実施しています。参加者は、名鉄の制服に着替え記念撮影、普段は入ることができない駅の裏側を見学したり、車掌になりきって車内放送体験などを行い、鉄道の仕事を手近に感じていただいています。最近では、グループ会社とコラボして同様のイベントを実施するなど、さまざまな仕事の“体験・見学”を通じて、お子様の成長に役立てる取り組みを続けています。



ホームドア説明



車内放送体験

「こども110番の駅」の取り組み

こどもを狙った犯罪の防止や安全な地域づくりなどを目的として、日本全国の鉄道事業者(169社局)と共同で「こども110番の駅」の取り組みを行っています。名古屋鉄道では終日駅員配置駅で「こども110番の駅」ステッカーおよびポスターを掲出し、こどもが助けを求めた場合、駅係員はこどもを保護し、こどもに代わって110番通報を行うなどの対応をとります。



©2009 Gullane(thomas)Limited

社会への貢献

■文化財の保護

博物館明治村は、昭和40年の開村以来、近代日本の基礎を築いた明治時代の建造物の移築や物品の収集に取り組んできました。約100万㎡の敷地に、国の重要文化財12件をはじめ、国登録有形文化財に指定された60余件の建造物が保存展示され、本物ならではの文化的価値に触れることができます。



芝川又右衛門邸

TOPICS

南知多ビーチランド&南知多おもちゃ王国 日本福祉大学と交流協定を締結

同施設は、平成21年3月の開園3周年を機に、キャンパスが近い日本福祉大学と交流協定を結びました。これは、同大学に新設された「子ども発達学部」の学生の学習フィールドとして、子どもの「遊び」の場を提供する「おもちゃ王国」を活用する一方で、乳幼児の遊びやおもちゃに関する学問的・専門的ノウハウを提供し、相互に連携・交流し合っ、その内容を深めていくとともに、子どもたちのよりよい発達のための教育プログラムの開発をめざしています。

お問合せ 南知多ビーチランド&南知多おもちゃ王国
0569-87-2000



調印式



株主・投資家の皆さまとのかかわり

名古屋鉄道では、株主・投資家の皆さまに企業経営に関する情報を適時適切に開示し、経営の透明性を確保し、信頼される企業をめざします。

適時適切な情報開示

株主・投資家の皆さまに対し、当社の財務状況や設備投資など、投資の判断に必要な経営情報を適時適切に開示し、会社の状況を正しく理解していただけるよう努めています。

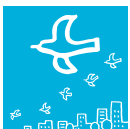
株主の皆さまには、半期ごとに決算の概要等を記載した報告書を送付し、経営状況を報告しています。また、ホームページに「株主・投資家情報」のサイトを設け、重要な企業情報の適時適切な提供に努めています。

株主総会

第146回定時株主総会を平成22年6月25日に開催し、約900名の株主の皆さまにご出席いただきました。当日は、映像を交えながら、平成21年度の事業報告や連結計算書類の説明等を行いました。

インサイダー取引の防止

投資判断に重要な影響を及ぼす重要事実に関する情報の管理および特定有価証券等に係る売買等の規制について、基本的な事項を定めた「内部者取引管理規則」を制定するなど、インサイダー取引の未然防止に努めています。



従業員とのかかわり

従業員一人ひとりが働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

人事制度

従業員一人ひとりが、やる気や働き甲斐を持って自らの役割を高いレベルで遂行できることを目的とした「役割等級制度」を導入しています。この制度は、組織において期待される役割を処遇決定の中心とするもので、コース・職種に応じて期待される役割を明確に定義し、従業員に明示しています。

また、期待される役割の遂行度合いを、複数の観点から客観的に評価し、その結果を従業員本人にフィードバックすることで、評価の透明性・納得性を高めるとともに、効果的な指導や従業員のさらなるスキルアップも図っています。

人材育成

名古屋鉄道は、従業員が担う役割に基づく教育体系を確立し、安全輸送を遂行するため徹底した安全教育と、お客さまサービス向上のための教育に力を入れています。

また、各種能力向上を補うため、「Career Step Guide」を積極的に活用した自己啓発支援制度を導入し、従業員一人ひとりが意欲的に能力を高め、大きな結果を出せる実践的な自己啓発の支援体制を整えています。

労働安全衛生

■労働安全衛生

社員一人ひとりに災害や事故がなく、健康で明るく働けることが、安全の確保とお客さまへのよりよいサービスの提供につながると考え、快適な職場環境づくりに努めています。毎年、安全および衛生のスローガンを掲げ、労働安全衛生に積極的に取り組んでいます。

■メンタルヘルス

メンタルヘルス不全者を発生させないため、また早期に発見できるようにするために、メンタルヘルスに対する正しい知識を身につけるための教育を実施しています。また、メンタルヘルス不全により会社を休んでいる従業員に対しては、産業医および保健師が定期的に保健面談を行い、復職に向けてのフォローアップを行っています。さらに、復職に際して勤務配慮が必要な場合は、産業医による勤務配慮措置により、できるだけ再発することがないように体制を整えています。

働きやすい環境づくり

■セクシャルハラスメント対策

セクシャルハラスメントは、個人の尊厳を傷つけ、能力の発揮を妨げるとともに、職場秩序や仕事の円滑な遂行が阻害される問題ととらえ、セクハラ防止のための研修や相談窓口の設置を行い、セクハラのない職場環境づくりに努めています。

みんなが描いたエコムーブトレインに乗ろう!

平成22年6月19日に、エコムーブトレインのデザインにご協力いただいた小学生をご招待し、完成したエコムーブトレインに乗っていただくイベントを開催しました。名鉄常滑線大同町駅から知多新線内海駅まで、エコムーブトレインにご乗車いただきながら、エコクイズなどのイベントを実施し、終点の内海駅では、みなさんに自ら描いたイラストを、駅のホームより見学していただきました。



エコムーブトレイン早く来ないかな～



いよいよ乗車!



記念撮影!



自分の描いた絵を探して



制作風景の広告に興味津々



車内でエコクイズもやりました

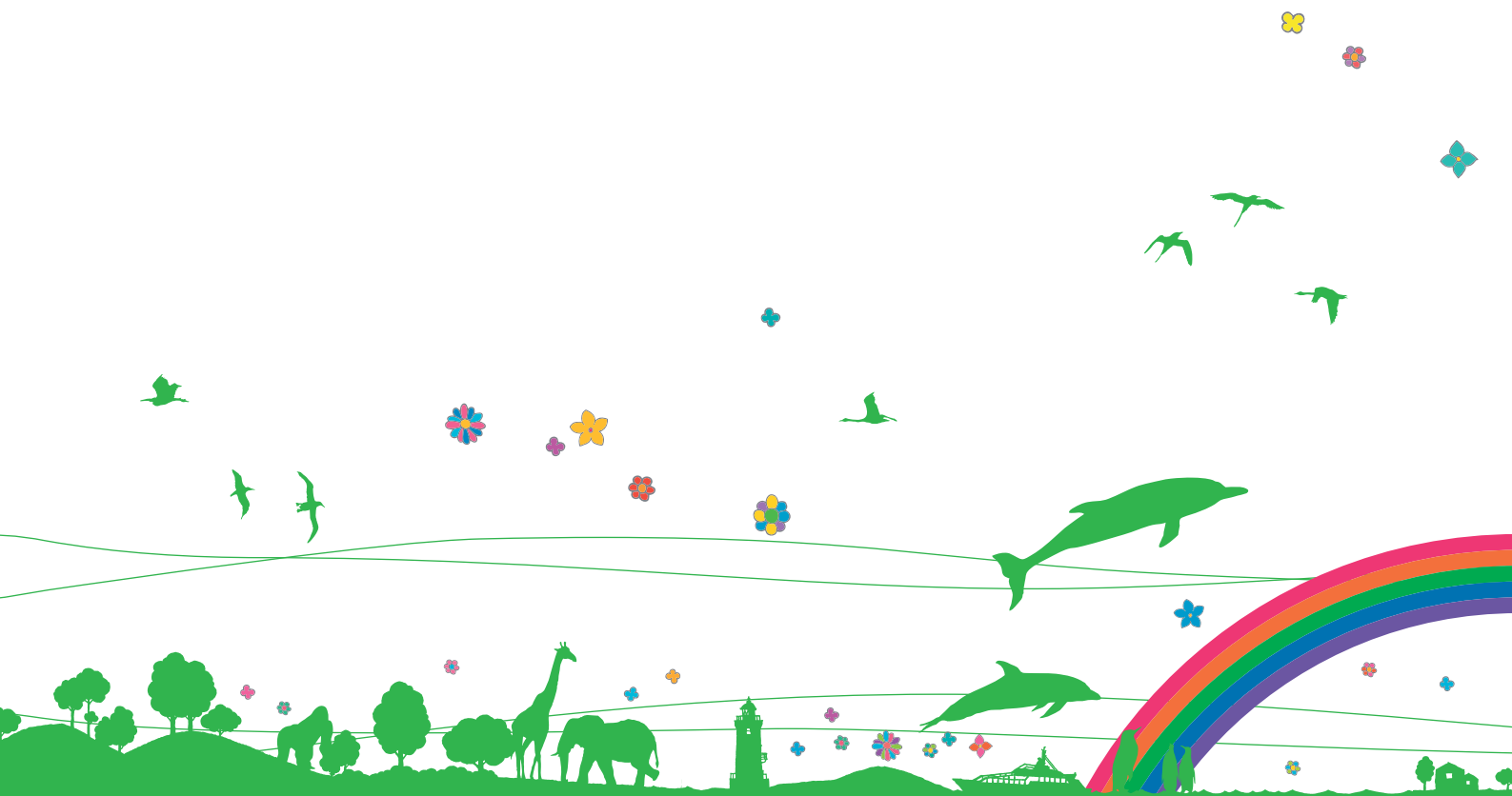


内海駅に到着!

社会活動報告
 従業員とのかかわり
 株主・投資家の皆さまとのかかわり

チャレンジ
未来が変わる。
日本が変わる。25

名鉄グループは「チャレンジ25キャンペーン」に参加しています。



名古屋鉄道株式会社

環境・社会報告書は
ホームページでもご覧いただけます。
<http://www.meitetsu.co.jp>



このキャンペーンマークは、豊かな地球環境の象徴であり、同時に名鉄グループ エコ・ビジョンの基本理念を達成するための4つの要素—環境保全に対する「意識の向上」「技術力の向上」「地域との連携」を3枚の若葉で、それらを根底で支える「法令遵守」をレールで表したものです。